

# 2010 AUTOBACS SUPER GT ROUND8 ツインリンクもてぎ

開催日:2010年10月24日(決勝) 開催地:鈴鹿サーキット/4.8013Km  
天候:曇り コースコンディション:ドライ 観客動員総数:32000人

## 残念ながらチャンピオン届かず



集中豪雨の影響でSUPER GT第7戦富士はキャンセルとなり、異例の2ヶ月のブランクを経て栃木県ツインリンクもてぎサーキットにて開幕した。富士スピードウェイと夏場のレースを得意とするチームは第7戦で大量得点を獲得しポイントリーダーに躍り出る予定であった。そして、最終戦となるツインリンクもてぎでは「低ポイント獲得でもチャンピオン！」という絵を描いていた。その中止により残念ながら季節はすっかり寒い秋となり、ツインリンクもてぎで迎えた最終戦。チームにとっては不利な状況であるが、シリーズランキングTOPとは8点差の3位。チャンピオンの可能性は十分あることからチーム・ドライバーともに、モチベーション高く挑んだ。

## 公式練習 10月22日(土)9:05~10:50

まさに秋晴れの青空がひろがる快晴の公式練習。カローラデビューと共に開発に携わり、セッティング能力も格段に向上した井口選手を柱にセットを進める計画。よって、井口選手から走行を開始しタイヤ比較、マシンチェックを担当。積極的な周回を重ね改良を加えたシャシパーツの評価を行った。結果、狙い通りのダウンフォースとシャシバランスも取ることができ、評価も上々。その後のタイヤ選択も確実にこなし、国本選手に交代。井口選手が走りはじめに記録したタイムが13番手となり公式練習を終了。記録は平凡だが、井口選手が太鼓判のマシンセットとなり、午後に行われるノックダウン予選に期待が持てる公式練習となった。

## 公式予選 13:05~13:50 ノックダウン予選 14:55~

いよいよ迎えた公式予選。今回はノックダウン方式の予選。マシンは朝の練習走行のデータ解析の結果から少しセット変更を加えた。

まずは公式予選GT500/300の混走の時間帯、セッション開始と同時に井口選手が中古タイヤでアタックし国本選手と交代。両者難なく基準タイムをクリアし井口選手の評価も上々。

そして迎えたノックダウン予選。秋晴れの天候は気温・路温ともに我々が想定するよりは低いが、まだストライクゾーン。今回は国本選手→井口選手→国本選手の順番で挑む。

先ずは24台中の16台が生き残りをかけたSession1(以下S1、S2、S3)マシンバランスが良好なだけに「#74 COROLLA Axio apr GT」は国本選手のアタックにより簡単に1番手タイムを出しクリア。

続いて16台中10台が生き残りをかけたS2。NEWタイヤを投入して井口選手がアタック。クリアラップがほとんど取れなかったが、3番手でクリアした。続いてスタート順位を決める最終のS3。日差しが傾き気温と路温が急激に下がる難しいコンディションのなか国本選手が挑む。シリーズランキング上位車両がほとんど残るが「#74 COROLLA Axio apr GT」



はポールを目標に掲げ国本選手の渾身のアタックのはずがなんとコースイン早々に4コーナーでコースアウト。若干の温度の変化にマシンとタイヤが非常にピーキーとなり、マシンコントロールできずにグラベルストップ。このまま無念の10番手で終了とチームも落胆と思いきや幸運にもルール上、最走行が認められた為、仕切りなおしの最アタック。しかしウォームアップに時間がかかり、完璧なアタックはできなかったものの4番手タイムであった。ポールは取れなかったもののセカンドグリッドからの発進。シリーズ1位2位は後方グリッド。ベストなポジションから期待の決勝を迎えられる事となった。

## 決勝日・フリー走行 8:30~9:15

期待された晴れの天気予報にあっさりと裏切られ、肌寒い今にも雨が降りそうな曇り空のもと気温も路温も全く想定外で朝のウォームアップランがスタートした。予選4番手位置からのスタートとなる「#74 COROLLA Axio apr GT」はスタートドライバーを務める井口選手からコースイン。マシンの最終チェックを行うものの、グリップが予想以上に低く苦戦。

その後国本選手へと交代しタイヤライフ確認を行うが、評価できる状況にはコンディションが程遠く、午後の天候回復を祈るばかりとなった。セッション順位は6番手と上々に見えるがチームにとってこのコンディションは深刻な問題であった。後は決勝を待つのみだが、天候頼りとタイヤをいかに有効に使う作戦を遂行するかが大きなポイントとなった。

## 決勝レース(53Laps) 14:00~

昨日の秋晴れから一転し天候の回復も見られぬまま今にも雨が落ちてきそうな肌寒いツインリンクもてぎ。グリッド上の気温は18度、路温は19度と全く想定外のコンディション。その寒さのなか最終戦を心待ちにしていた、大勢のファンで埋め尽くされたメインスタンドから歓声が鳴り響くなかついに決勝レースがスタート。

ツインリンクもてぎは、2輪の世界選手権が開催される国際サーキットであり、コースのグラベルは深い砂利。よってコースアウトしてしまうとマシンはストップしレースは終わる。また、オーバーテイクポイントが意外に少なく一度ポジションダウンすると上位進出は厳しくなる。例年最終戦はヒートアップし確実にサバイバル戦となる。予期せぬアクシデントやドラマが待ち受けているのも、特徴のひとつである。このコンディションだとセーフティーな作戦以外は無く、先ずコース上に留まり、グリップが出てきた時点からプッシュし上位復帰を狙う作戦。今回は井口選手→国本選手の順でレースに挑む。

4番手スタートとなる「#74 COROLLA Axio apr GT」は表彰台さえ乗ればチャンピオンの可能性が高い。まずは安定感に定評のある井口選手からはじまる。スタートでの混乱に巻き込まれないように、慎重にタイヤに熱を入れながらフォーメーションラップを走行。厳しいコンディションではあったが、予選3番手の9号車も同じであったのかなんとフォーメーション中にスピン。なんと労せずフォーメーションラップ中に3番手にポジションアップ。

全車がストレートに戻り、GT300は各車一斉にクリーンなスタートが切られ隊列は一気に1コーナーへと流れ込む。GT500/300ともに慎重なスタートであり、大きなクラッシュも無いオープニングラップ。そのなか4番手グリッドから冷静なスタートを切った井口選手は1周目から慎重にポジションキープ。しかしあろう事か映し出された映像には3コーナーでグラベルに埋まる「#74 COROLLA Axio apr GT」。この2年間でテスト走行も含めスピンによってグラベルに捕まった事の無い井口選手がオープニングラップでまさかの単独スピン。やはり予想通りこのコンディションではコースに留まることすらできなかった。まさしく予選スピンの国本選手と同じ状況であった。その後、砂利のグラベルは深くオフィシャルの手をかりる間に周回遅れに。これにより2010年度のタイトル争いから離脱することとなった。



その後レースには復帰をするが、やはりこのコンディションでは思うようなグリップは得られず25周の間ペースを上げることはできずに周回遅れのままピットイン。ルーティーンのパIT作業を素早くこなし国本選手をコースに送り出す。国本選手も温度レンジが全く合わないコンディションのなか苦戦するが意地のGT300ファステストラップを叩き出し「#74 COROLLA Axio GT」の走りをアピール。その後、更に気温は更に下がり、国本選手は苦戦を強いられ完走したレースの中では今期ワーストの17位となり今シーズンは、ドライバーランキング5位、チームランキングは4位という結果で締めくくることがとなった。



#### 井口選手

「気温が低く厳しい状況でしたが、車のバランスも非常に良く、その中でのタイヤの選択も間違っていなかったと思います。自分のミスでチャンピオンのかかったレースを一瞬にして台無しにしてしまい、関係者の皆様には申し訳なく思っています。チャンピオンは逃してしまいましたがカローラはデビューしてから2年で確実にパフォーマンスが上がっていると感じています。JAF CUPでは最終戦で経験したことを活かして、最高の結果にしたいと思います。」



#### 国本選手

「チャンピオンを獲ることが出来ず残念ですが、予選では4位、決勝ではファステストラップを出すことができ、速さを見せることが出来たと思います。2年間を通して車のレベルはすごく上がり、チームとやってきたことが正しかったと確信しました。最後のJAFグランプリでは、速さを活かして優勝します！応援して下さい皆様、ありがとうございました。」



#### apr代表金曾裕人

「aprで大きく育ってくれた井口・国本両選手に全てを授け、このコンディションでチャンピオンを狙いに行った結果が、1周もできずにコースOFFでシーズンが終わったが、これに対して悔いは無い。井口選手でも無理なら、対処ができない程危険なゾーンにマシンは居たということである。チームは井口選手を信頼しており、このカローラを熟知しているからこそ今回の単独スピン要因をチームがハードウェアで防げなかった事が非常に残念である。また、国本選手もレースを捨てることなく意地のファステストを出し「#74 COROLLA Axio GT」が速くなったことを証明してくれた。チャンピオンが目前ただだけに悔しいが、これが我々の今の実力として真摯に受け止めています。ご期待くださった皆様に申し訳なく思うと共に、更なる発展をお約束いたします。一年間ご声援ありがとうございました。」

本リリースに関するお問合せ



株式会社エー・ピー・アール  
〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3111  
TEL 046-226-5276 046-228-7636  
(担当: 赤城 [akagi@apr-jp.com](mailto:akagi@apr-jp.com))

